



FUJINO ART SANCTUARY

Field Museum Guide

アーティストの棲むまち 藤野

昭和の終わりにから平成の初めにかけて、当時の藤野町のまきむくりことアーティストした、ふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉庫地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。人と環境との関わりが大きく問われている今の時代にこそ、作品たちが語りかける声を伝えたい。そんな想いから、このパフレットを創りました。藤野の散策がぐさぐさアート巡りをお楽しみください。



1 『フジノゲート』H21作:高橋 政行
芸術のまちFUJINOを訪れる人々を迎え、毎路に惹く人々を見送る「芸術への門」。
藤野アートを巡る旅は、ここから始まり、ここへ帰る。人々の心の中に芸術の灯が輝き続けることを夢見ながら、ゲートは静かに待っている。

※藤野観光案内所入り口に設置されています



2 『藤波』H2作:呉倉 徹
深い紫は雲の記憶。目にするたび、日常の中で忘れられた情景や色彩が、今も色鮮やかに、人々をやさしく迎え入れてくれる。

※R21全館リニューアルしました



3 『淵(とろ)』H1作:深谷 泰正
この作品は、植物の種が発芽する時の、内から外へ発せられる自然の強い生命力を表現している。



4 『バッファロー』S63作:ジム・ドラ
元々しく大地を駆け回るバッファローの雄々しい姿、生命の躍動感を、彫影豊かな造形で表現した作品である。

※藤野総合芸術館南玄関前に設置されています



5 『記憶の壁一水より、台地より』H3作:関本 敦生
これは、置かれる場所からの想像ではなく、作者の内面思考から生まれた作品である。石という素材の個性上、作者の関わりによって展開され、石の意外な表情の表現を意図している。環境の中で、これら作品がどのように呼吸を始めるかを見届けた。

※日蓮大僧の墓と関連して設置されています



6 『両側の丘の斜面』H2作:三梨 伸
変化に富む自然の中に異質な造形を持ち込むことにより、空間の緊張感、相対性、小宇宙を創造する。



7 『COSMOS』H2作:村上 正江
彼女が送る旅は、内に秘めた愛を持って太古へいざない、遠く宇宙へ旅立つ。彼女の想いは悠久の風に乗る、無限の世界へと続いている。



8 『限定と無限定』H3作:古郷 秀一
周辺の環境を直接作品に取り込むため、細い鉄筋を幾層にも重ねて、半透明の空間を作っている。これは、距離と空間の固定的な枠を感じ、見え隠れする新たな空間を提示している。

作品周辺の造型をコントラストの中に、自然への問いが伝わってくる。



9 『射影子午線』S63作:加藤 義次
指円球状パイプから1988年10月の天象を型取り、火焔が見えるように設置されている。

※藤野総合芸術館南玄関前に設置されています



10 『山の目』S63作:高橋 政行
足踏れた山が突然目を見まし、裏返る下界にメッセージを送る。雲のうららかな空の下から、あるいは夏の夕暮からと輝く新緑、真赤に燃える紅葉の中から、そして静寂の雪に覆る。四季の移ろいとともに送られる無言のメッセージに、人は何を感じるのだろうか。

※藤野神社入り口に設置されています



11 『森の守護神』H3作:佐光 庸行
藤野の自然を大胆に切り取り、石の素材でシンプルに、しかもダイナミックに表現している。静かな生命感あふれる姿を想像させ、また、DNA(染色体)の遺伝子をも連想させるこの作品は、過去から未来へと、自然のたくましさを感じさせる。



12 『回帰する球体』H1作:中瀬 康志
どこからか流れてきてここに落ち着く、周囲の自然に馴染んでしまった巨大な球体。新しい生命が吹き出すと自然と同化していく様子を見た作品。



13 『伏える』H1作:植草 永生
人間社会の営みは、自然の営みにも似て、変化する環境と密接な関わりを持っている。これは、距離と空間の固定的な枠を感じ、見え隠れする新たな空間を提示している。

作品周辺の造型をコントラストの中に、自然への問いが伝わってくる。



14 『語り合う石たち』H2作:杉浦 康益
実は同じ形に作られた8個の作品。置き方を違えることにより、それぞれに個性と存在感が生まれ、存在するという実感を大いに表現した作品は、相互に語り合っている。

※藤野神社裏手に設置されています



15 『雑典書院』H2作:加藤 義次
足踏れた山が突然目を見まし、裏返る下界にメッセージを送る。雲のうららかな空の下から、あるいは夏の夕暮からと輝く新緑、真赤に燃える紅葉の中から、そして静寂の雪に覆る。四季の移ろいとともに送られる無言のメッセージに、人は何を感じるのだろうか。

※藤野神社入り口に設置されています



16 『FLORA-FAUNA』H2作:原 智
巨大な昆虫のような作品を置くことによって、それまでの静寂な空気や緊張感を、また新たな緊張感を生み出す。静かに死んで行く時間や空気に、永続的な刺激と振動を与えた作品。



17 『庵(いおり)』H3作:斉藤 史門
林の中に、あたかも何十年も前から存在しているかのような建物。物々しきもの、木が削り、朽ち果て、草木に覆われて場となる。人の生活と歴史、過ぎ去った時間を表現した作品。



18 左『未来への躍動』右『季節の翼』H3作:中瀬 康志
自然と供たのすばらしいパワーを表現した作品。

※この2作品は「シャクティ」字門奥地に設置されています。許可なく立ち入ることはご遠慮下さい。



19 『森の記念碑』H2作:池田 徹
鉄と石を礎として、自然との調和と緊張感を演出。空間を切り取ったり、付足したりすることにより、大自然を凝縮した力強い、そして静かな小宇宙を創造している。



20 『芽輪』H2作:田辺 光彰
大自然の開闢は発芽の瞬間。この作品は、植物が芽を出す時の最も美しいエネルギーを表現している。その形はエリの発芽から発想し、光を求めるかのように、南を指して傾いている。



21 『雨』H8作::フェリット・オズエン
芸術の道のゆるやかな坂道に、雲から雨を降らせる「Rain on my way」の窓がある。雲の先には、大空に消えた山頂が、大地に雨を降らせる情景。天の恵み、人間の自然と共に感じさせてくれる作品。



22 『あなたと...明日の空の色について』H3作:武荒 信樹
雲林の丘の斜面に、被験のバランスで構成された幾何学作品。音楽を流れる雲や、風に吹かれてはびくはびく動く鉄線に映える。山や川、自然の息を吐き出す。あるがままの自然と次元を越えた自然が静かな感動を、観る者に与えてくれる。



23 『空を持つ柱』H3作:土屋 昌義
ステンレス板を組み合わせて造られた塔。これまでの現の空間とは異なる造形を創造することで、自然との調和を創った作品である。陽光を反射し、鉄と鉄の間が通ることで、自然と共鳴する音楽的感覚をも表現している。



24 『カリブー』S63作:ジム・ドラ
生命力に溢れたシカルの動物カリブー。自然に訴け込で、今にも跳躍しようとする姿、その見事な角に秘められた強さは、命の輝きを感じさせてくれる。

※名倉グラウンドに設置されています



25 『トライアングル・ウィンド・ソング』H2作:鈴木 明
風の音、木の音、土の音、時には雨の音が風に伝わり、また光や影により変えられる。人と環境と芸術が調和したリズムを表現した作品である。

※名倉グラウンドに設置されています



26 『過去からのひびき(エコー)』S63作:アロイス・ラング
都市と自然、2つのオブジェからなる作品。人間社会が進化するために、自然は自然のままに、人間社会は人間社会として進化している。しかし自然の中に人間の痕跡のような風景が残っている限り、人間は自然への可能性を失ってはならない。この作品は、昔の姿を今と対比する自然を表現している。



27 『緑のラブレター』H1作:高橋 政行
藤野野外環境公園を代表する作品。インパネのある窓から多くのファンを持ち、メディアにまたびたり見守っている。自然の恵みを感じ、環境の大切さを、山や川、自然の息を吐き出す。あるがままの自然と次元を越えた自然が静かな感動を、観る者に与えてくれる。

※中央自動車道、藤野パーキングエリア、藤野駅から見ることが出来ます



28 『カナダ風』S63作:ジム・ドラ
大自然の中を、力強く飛翔するカナダ風の子。山と川を思わせた緑のカナダを感じ、環境の大切さを、山や川、自然の息を吐き出す。あるがままの自然と次元を越えた自然が静かな感動を、観る者に与えてくれる。

※名倉グラウンドに設置されています



『芸術の道』案内板
豊かな自然に育まれた藤野の文化、芸術活動への出会いを案内します。芸術の道沿いや野外環境アート作品のある場所に設置されています。

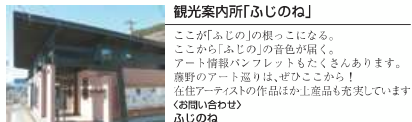


藤野園芸ランド遊歩道
森林緑の森100道にも選ばれた広葉樹の中にある「藤野園芸ランド遊歩道」は、藤野園芸の道の行く所を案内しています。芸術館やセッでマイクスイスイ調子の緑木林の中を歩くコースはおすすです。

FUJINO ART SANCTUARY

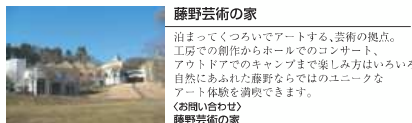
野外環境アート作品ガイドとコースの案内

芸術の道



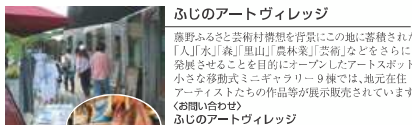
観光案内所「ふじのね」

ここが「ふじの」の根っこになる。
ここから「ふじの」の景色が広がる。
アート情報パンフレットもたくさんあります。
藤野のアート巡りは、ぜひここから！
在任アーティストの作品はか上産品も充実しています！
〈お問い合わせ〉
ふじのね
TEL 042-687-5581
■営業時間／8:30～17:00
■年中無休(年末年始除く)



藤野芸術の家

泊まってくつろいでアートをさぐり、芸術の拠点。
工房での創作からホールでのコンサート、
アウトドアでのキャンプまで楽しみ方はいろいろ。
自然にあふれた藤野ならではのユニークな
アート体験を満喫できます。
〈お問い合わせ〉
藤野芸術の家
TEL 042-688-3030
■開館時間／9:00～21:00
■定休日／毎週火曜及び年末年始
※時間等詳しくは問い合わせ下さい。



ふじのアートヴィレッジ

藤野ふるさと芸術村構想を背景にこの地に着目された
「人」[水]「森」[里山]「農林業」[芸術]などをさらに
発展させることを目的にオープンしたアートの拠点。
小さな移動式ミニギャラリー・9棟では、地元在住
アーティストたちの作品等が展示販売されています。
〈お問い合わせ〉
ふじのアートヴィレッジ
TEL 090-5564-6776
■営業時間／11:00～17:00
■営業日／土・日・祝日のみオープン

野山の食堂

〈お問い合わせ〉
TEL 090-3791-0999
■営業日 金・土・日 藤野ビザ / 月～木 笑花食堂



野外彫刻アプリ「fujinoART」もご利用ください。

ACCESS

- 電車をご利用の場合
JR新藤野駅より八王子線経由で65分
JR相模原駅より八王子線経由で80分
- お車をご利用の場合
中央自動車道相模湖インターより5分
南大塚相模湖インターより40分、南大塚インターより25分



- 芸術の道 おすすめ散策コース ●
※所要時間は目安です
- 演劇コース(180分)
JR藤野駅→日連大橋→秋川橋
→芸術の道入口(区画の丘の斜面)が目印
→前戸沢橋→葛原神社→名倉峠→市道
→名倉グラウンド→弁天橋→JR藤野駅
- お手軽コース(75分)
JR藤野駅→日連大橋→秋川橋→名倉グラウンド
→弁天橋→JR藤野駅

藤野ふるさと芸術村 メッセージ事業推進委員会

●藤野まちづくりセンター●

〒262-5152 神奈川県相模原市緑区小沼2000番地

TEL042-687-2119 FAX042-687-4347

E-mail: fujino-cen@city.sagamihara.kanagawa.jp



相模原市緑区
イメージキャラクター「ミウル」

藤野園芸ランド
名倉地区には地元農家による観光農園が
あちこちにありま。す。
果のりんや芋掘り、旅を一層豊かにしてくれるはす。
入園料はありませんので、アート巡りの途中で
お気軽に農家を訪ね、山里ならではの楽しさを
ぜひ体験して下さい。
〈お問い合わせ・お申し込み〉
藤野園芸ランド運営協議会(農団)
TEL 090-1888-1206

**アート巡りを楽しんだら、
ゆっくり温泉はいかがですか？**



藤野やまなみ温泉
露天風呂からの開放的な眺めと広々として快適な
施設が人気の温泉施設。
食事処を備えた休憩所もあります。
〈お問い合わせ〉
TEL 042-686-8073
■営業時間／10:00～21:00
■休館日／水曜日(祝日・年末年始の場合は営業)
※3時間利用700円 1日利用1,000円